

新型コロナウイルス感染症対応で大変な時だからこそ 『ちいさいなかま』で保育者と父母がつながりましょう ＝まわりの方に購読をお勧め願います＝

雨宮処凛さんは、69 巻に、「非常事態は、知らず知らずの間に人を、社会を人間関係を変えていく。そのことに自覚的でいようと毎日自分に言い聞かせている」。そして、「これを機に、もっともっと『助け合い』『支え合い』が広がっていけば、『悪いことばかりじゃなかったよね』とあとで言える。そうできるかできないか、私たちにかかっているのだと思う」と。⇒2011年3月11日におきた東日本大震災から10年目、2016年4月14日に起きた熊本地震から5年目の今年、私たちはあらためて日常生活のありがたさ、人と人のつながりの大切さを自覚せざるえない今です。被災された福島はじめ東北の方々、熊本の方々はまだ復興の道半ばです。また、新型コロナで生業が大変なの方々、家庭内でDVや虐待に直面しているの方々、医療従事者の方々、そして、保育園がクラスターにならないようにと毎日緊張を強いられる保育者の方々、みなさんの思いを内に秘めずに発信しましょう。そして、共につながりましょう。

『ちいさいなかま』の読者の皆さん。『ちいさいなかま』の感想、日常お気づきのこと、保育・子育てで大変なこと、すてきな提案、保育の様子の写真など、福岡県保育センターにメール・FAXなどでお寄せください。

そして、なかなか顔を合わせる機会が減っていますが、電話、SNSなどを活用して、まわりの方に『ちいさいなかま』の購読をお勧め願います。

今年の全国合研は開催を見送ります

編集の関係で、第52回全国保育団体合同研究集会のお知らせが掲載されていますが、新型コロナウイルス感染症の拡大が止まらず、いつ収束するか見通せない状況、合研集会の準備ができない状況から、全国合研の開催を今年は見送り(中止)します。しかし、合研の歩みを来年につなぐために、基調報告と既に申し出のあった分科会提案を第

★6月号の特集は、お父さん、園にきてみない？

◎**実践**：福島県福島市・さくら保育園と愛知県春日井市・第二そだち保育園のお父さん会の報告、岐阜県中津川市・こぼと保育園の有志の報告です。

- ・オヤジの会に入り、パパ同士の横のつながりも増え、園に行くのが楽しくなりました。保育園がアウェイからホームへ。
- ・園のために一肌脱ごうと立ち上がって、日曜に、お母ちゃんに子どもを預けて園手伝いをするのは、お母ちゃんに恩返しできていないよねと、十ちゃんの憩いの場を提供することにした。
- ・園長が保護者会総会で「園庭に築山をつくりたい」と。有志の保育者と保護者が、あーでもない、こーでもないと話しかって、それぞれ動いて完成。いっしょに何かを行うなかで感動を共有でき、人と人とのつながりも。

◎**小論**：男性の育児休業取得を阻む職場の雰囲気（職場の風土・業務分担の偏り・長時間労働・人員配置などの環境）が問題。内閣府の「イクメンプロジェクト」では、出産8週間までの男性の育児休業が推奨されることから、長期の育児休業を取得する男性が減っている。育児が長期にわたり夫婦で協働していくものであるという視点が欠如している。この背後には、家事と育児は女性が中心に行うものであるという伝統的な性別役割分業意識が根強く横たわっていて、この意識が強固に維持される背景には、女性が長期的に生計維持に貢献できる体制が整っていない現実があると。2017年のOECDレポートでは、日本は「無償労働や育児の4分の3以上を女性が行い、男性は職場で長時間労働をする」という明確な役割分担がある」と紹介され、女性の管理職数と取締役役に占める割合がOECD諸国中最下位であること、男女賃金格差がOECD加盟国の中でも極めて大きいことが要因として指摘されていると。男女の雇用形態や賃金の差、そしてキャリアコースの見通しの格差は、家事・育児分担についての公平な交渉権を女性から奪いますと。これを改善していくためには、雇用制度として、日常の保育にお父さんが参加できる日を設けることを提案され、アメリカの保育支援「ヘッドスタート」、父親の日常的な保育参加プログラムでは、経験に乏しく、子育てに自信が持てないお父さんに、「得意を活かす」というアプローチがされていて、父親の子育て参加に効果的であることが実証されていると。⇒**父親と母親が共に育児を担うのだという意識と行動は、園行事のお手伝いから入り、お父さん会など楽しいことがきっかけではと思いました。**

◎連載：沖縄の子ども食堂から③(54 頁)今4年生のつばきちゃんは、子ども食堂で喜怒哀楽を出して過ごしています。共に過ごすことで、ひとりの人として接することで、より楽しく、お互いに学びあっていると。

◎連載：もっと気楽に家事・子育て③(60 頁)人と比べずに、心地よく暮らすポイントは三つ。自分らしく、保育園とともに子育てするポイントです。

◎連載：おばちゃん、保育園であそぶ③(64 頁)保育園で子どもは多くの時間をあそんで過ごします。「ワクワクするあそびは子どもを大きく成長させる。子どもにとってあそぶことは、生きる力を獲得することなのだ」と。

◎連載：2歳児の発達と保育③(80 頁)二歳児の身体の育ちにおいて経験をどのように考えるか、また身体の育ちを支えるうえでおとなが大切にしたいことは何かについて考えてみます。「子どもにとって今、楽しく、手応えをもって行う活動を通して、身体を動かす経験の幅を広げていくことや、子どもが憧れの活動に挑戦していくときには、長期的な見通しをもった関わりが大切になることを、保育者と保護者が共に理解しあえることが大切だと思います。子どもの育ちを中心に、みんなが話しあい、考えあっていたいですね」と。

◎連載：保育、こんなときどうする？どう考える？②(88 頁)

「やりたくない」と子どもが言ったとき、あなたは？日々の保育園の生活ではやるべきことを次々と済ませられることがよい保育だと思われがちだけれど、それでよいのか？「そのときどきの子どもの気持ちを感じとり、そうした子どもたちをわかろうとし、子どもの出すサインにちゃんとつきあい、できたりできなかつたりしながらも、子どもと思いを交わしあうことが保育ではないでしょうか」と。

◆わたしの保育実践ノートNo.327 雨をたっぷり味わおうー2歳児 実体験で豊かに育ちあう(70 頁)Kちゃんとの関わりから、「気になる」姿を「気になる」ままにしておくのではなく、気になる姿の中にある「子どもの願い」を深くとらえることの大切さを、実感しました」と。

◆子育て日記 まだまだ至らないははですが(56 頁)兄と私は幼稚園、弟は保育園。安心してあそべる居場所があること。友だちがいること。見守ってくれる先生がいること。必ず父か母が迎えに来てくれること。弟は、自分のことが自分でできる生活力があり、何事もがんばるたくましい子に育ちました。私は保育園に憧れていて、自分が子育てをするなら子どもは保育園にと、長男を保育園に入園。次男が生まれて、「育休退園という壁」に。次男は産休明け・

保活で待機児童になり、退園せずに済んで、子育てで悩んだり困ったりしても、
職場や保育園ですぐに聞いてもらえるし、いいところ取りの、めでたしめでたし。
⇒一日も早く新型コロナウイルス感染症が収束して、保育園での日常が取り戻せることが
必要ですね。今月号は、日常の保育の大切さを噛みしめながら読みましょう。

☆☆

ずっとずっと続く 子どもの未来！未来のこども！

・・・荒井良二さんからのメッセージ

合研Tシャツ を買ってください

【Tシャツデザインは4月号裏表紙参照】

◎おとな…サイズはS・M・L・LL

白1,900円 きいろ2,000円

◎こども…サイズは100・110・120・130cm

白1,600円 きいろ1,700円

※きいろは枚数に限りがあります。お早めにお申込みください。

※10枚以上購入の場合、割引で頒布します。



九州の保育園でのからだあそびを大紹介

・・・ちょっとした空き時間でも、時間をとってじっくりあそび込む時も

子どもたちが大喜びする、そんなあそびがいっぱい！！

九州合研常任委員会編集

『からだあそび 145選』

(かがわ出版)

定価3,000円+税です。

☆保育センター会員と『ちいさいなかま』読者は

特価にて頒布いたします。



Tシャツと本の申込みは保育センターへ FAX092-781-1995

Eメール: center5234@rose.plala.or.jp